オーストラリアバオバブ生育記録
～導入から８年目の開花記録～

西内良

2017 年 10 月 3 日の定植から 8 年が過ぎたオーストラリアバオバブ（以下バオバブ）の 8 年目の生育状況と管理について記録する。

落葉から萌芽

これまでのシーズンと同時期にあたる 2025 年 1 月中旬にすべての葉が落葉した。萌芽については 5 月 27 日、枝先を観察していたところ、わずかに目視で確認できた（写真）。これは当園大温室に定植以降、過去 2 番目に遅い萌芽の確認である。

潅水と枝葉の生育経過

萌芽を確認したことから、6 月 7 日に今シーズン最初の潅水（潅水量 150 L）、6 月 18 日に 2 回目の潅水（300 L）を行った。この段階では新梢の伸びや葉の展開も鈍かった。6 月下旬以降に、はっきりとした枝葉の成長を感じるようになってきた。なお、これに先んじて 3 月にバオバブ植栽区の土を掘り起こし、根の状態を確認したところ、株元から周囲 1.0 m 程の範囲は水分を吸収しうる細根が発生した痕跡が確認できなかったため、今シーズンは株元から周囲 1 メートル以上離れた土壌に重点的に潅水するように努めた。以降 7 月から 9 月まで、潅水頻度を 7 日～ 10 日に 1 度とし、灌水量は 300 L/ 回とした。10 月は 10 日間隔で 3 回潅水を行い、10 月 20 日に葉の黄変が確認された。11 月は中旬に 1 度潅水し、今年の潅水を終了した。

出蕾と蕾の生育経過

シーズン最初の出蕾確認日は 8 月 5 日で、その時に確認できた個数は 3 個であった。その後も順次出蕾と開花が起こり、8 月 24 日時点では計 5 輪が開花し、開花を控えた蕾は残り 4 個であった。この日以降新たな蕾は確認できず、9 月 13 日、今シーズン最後にあたる 9 輪目が開花した。今シーズンは確認した蕾全てが開花まで到達した。

秋以降の状況

葉の黄変確認以降、黄変と落葉が例年並みのペースで進んでいる。12 月 10 日時点で夏期に展開していた葉の 5 割程度が落葉したが、黄変せず緑色を保った葉も存在している。

その他の様子や今後の栽培管理

前年 11 月に、内部腐食の疑いがあったため裁断した太枝は（西内 2025）、今シーズン異常が発生することはなかった。また、7 月上旬に、幹の表面に生えていた黒色の蘚苔類を、歯ブラシを用いて削ぎ落とした。なお、今シーズンは、近年減少傾向を辿っていた開花数に歯止めがかかったシーズンとなった（表）。昨シーズンは出蕾を確認した 6 輪の全てが開花せず枯死したが、これは殺菌剤の高温期の薬害が主たる原因であったと現在のところ推測している。今シーズンの出蕾数及び開花数の増加の原因は、昨シーズンに未開花であったために株が消耗しなかったため、あるいは夏期の晴天日数の増加による光合成量の増加等が考えられる。

今後の栽培管理として、周囲のトックリキワタやプセウドボンバックス、ヤシ類の葉の剪定を行い、バオバブへの日照量の確保を行いたい。また、バオバブ南東側のクロトンを間引き、周囲の通風を向上させることや、5 月の萌芽を早めることを目的として、3 月の大温室内の設定最低温度を例年の 13 ℃から 15 ℃に引き上げることを検討している。

写真 萌芽した枝（2025 年 5 月 27 日撮影）

表 オーストラリアバオバブ導入後の開花輪数

年	開花数（輪）
2017	0*
2018	0
2019	6
2020	14
2021	45
2022	7
2023	4
2024	0
2025	9

* 開花期後にあたる同年 10 月に定植

引用文献

西内　良 2025.　オーストラリアバオバブ生育記録～導入から 7 年目の開花記録～ . 広島市植物公園栽培記録 46：32-34.